2022年12月1日発行(毎月1回1日発行)

DOYOU さいたま

同友会の三つの目的／よい会社　よい経営者　よい経営環境をめざす

設営 むさし野地区会

10月19日、2022年度全県経営研究集会がむさし野地区会設営のもと、ベルセゾンにて開催されました。今年度は326名の参加登録があり、6つの分科会に分かれて参加者が活発な議論を交わしました。その後の記念講演では銚子電気鉄道(株)竹本勝紀氏の報告が大きな感動を呼びました。今号では記念講演、各分科会の模様を特集掲載し、裏表紙は写真で振り返ります。

2022-12 December
VOL.534 毎月1日発行

特集 2022年度 全県経営研究集会
「本質を学び熱量高く 強い経営実践への糧とする!」
～広げよう学びの輪 磨こう経営の力～
https://www.saitama.doyu.jp

社長の学校®

特集

埼玉中小企業家同友会 2022年度 全県経営研究集会

「本質を学び熱量高く 強い経営実践への糧とする！」
～広げよう学びの輪 磨こう経営の力～

開催日：2022年10月19日（水）　会場：ベルセゾン

10月19日（水）、埼玉中小企業家同友会 全県経営研究集会が「本質を学び熱量高く 強い経営実践への糧とする！ ～広げよう学びの輪 磨こう経営の力～」を開催テーマに、むさし野地区会設営で大野埼玉県知事、並木新座市長を来賓に招いて開催されました。326名の参加登録がありました。

第1部の分科会は県内外の報告者で見学分科会を含む6分科会を開催しましたが、各分科会はそれぞれのテーマで大いに学び合いました。

第2部の全体会及び記念講演は「絶対にあきらめない。地域になくてはならない銚子電鉄存続への挑戦！～預金残高50万円負債 2億円の銚電を立て直すには、アイデアを売るしかない～」をテーマに銚子電気鉄道㈱ 代表取締役 竹本 勝紀氏（千葉県中小企業家同友会 千葉中央支部）に幾度も起こる様々な試練に社員と共に立ち向かう事例を笑いとユーモアを交えながら報告していただきました。経営をあきらめない経営者のあり方は参加者に多くの刺激となりました。（詳細は下記に掲載）

第3部の懇親会はコロナ禍を意識して、埼玉同友会としては今までの立食形式から希望着席形式に変更して開催しました。飲食時以外はマスク着用で不自由も感じられましたが久しぶりの県内各地の懇親交流は有意義であったと思われました。

【第2部】記念講演

絶対にあきらめない。地域になくてはならない銚子電鉄存続への挑戦！

～預金残高50万円負債2億円の銚電を立て直すには、アイデアを売るしかない～

竹本 勝紀氏
銚子電気鉄道㈱
代表取締役社長
千葉県中小企業家同友会

本日はお招きいただきありがとうございました。3年ぶりのリアル開催ということで、この会場の熱量を感じます。先ほど太田代表理事から、熱量が大事だというお話がありましたが、全く同感です。言い方を変えますと、生きることは情熱で、情熱を失ってしまったら、企業も人も終わってしまうのではないかと、それくらい、次から次へと立ちはだかる困難に情熱をもって立ち向かうことが大事だと考えます。絶対にあきらめないというタイトルについてお話しますが「あきらめない」と、ただつぶやいてもダメです。どこかに突破口があると信じて探す行動に出ること、これが真のあきらめない、ということだと私は思います。

全長わずか6.4㎞。自転車より遅い!?

最初に銚子電鉄の概要と歴史について話します。銚子電鉄、略して銚電は1923年7月5日に走り始め、今年で開業99年、来年はいよいよ100周年を迎えます。銚子市の中だけを走っていて、全長6.4㎞、わずか10駅がバスのようにひしめいています。最高速度40キロ。自転車より遅いとYouTubeにアップされたりしています。

銚子電鉄との関わりは17年前、ある弁護士の方から「厳しい会社があるので、かかわってほしい」と、元々税理士だった私に依頼があったことからです。当時、もはや破産の申し立てしかないのでは?というような状況で、その上、裁判所に納める予納金もないほどでした。

銚子電鉄の経営状況を一言で話すと、電車屋なのに、自転車操業。自虐でございますが、自虐だけだと、テンションが下がるのでギャグを加えて、ジギャグです。

親会社の倒産とぬれ煎餅事業

平成10年、親会社である工務店が800億近い債務を抱えて倒産しました。子会社、銚子電鉄の存続も危ぶまれました。しかし、その2年前、本社がある駅舎の駅長が、そのプライドを捨てて、煎餅を焼いていた『ぬれ煎餅事業』が軌道に乗って、何とか事業を存続できました。駅長の何としても銚子電鉄を守りたいという気持ちが伝わったのか、テレビでタレントさんが、このお煎餅を好きだと言ってくれたことから火が付き、第一次ぬれ煎餅ブームになりました。一気に売り上げが2億円を超えました。当時、鉄道収入が1億ちょっとだった、にもかかわらずです。

ところが、平成16年、今度は、当時の社長の業務上横領が発覚しました。社長が多額の借財を会社名でしてしまったことから、その約1億円の債務を、会社が負わなくてはならなくなったのです。当時の役員は地元の名士みたいな方々で、実際に経営に参画しているというより名誉職のような意味合いが強く、その間隙（かんげき）を突いて、このようなことが起きてし

まったわけです。そもそもローカル線というのは、どこも経営が厳しく、他の鉄道会社は国からの補助金で何とか経営を維持できているところがほとんどなのに、その補助金も一切もらえなくなりました。

鉄道事業は装置産業で、線路1メートル直すのに10万円かかるのです。まさに金を失うと書いて鉄道です。ただでさえお金がかかるのに、さらにお金がなくなり、労働組合からお金を借りて給料を払うような事態になりました。

平成17年から、私も銚子電鉄に関わるようになっていましたが、コストカットだけでは無理なので、お煎餅の販売に注力しました。タッパーに詰めて試食販売などを行いましたが、それだけでは限界があるので、ネット販売にも着手しました。お金がない会社でしたから、私が自分のお小遣いでレンタルサーバーを借りて、公式オンラインショップを立ち上げる、というようなところからのスタートでした。

ぬれ煎餅ブーム再び!

当初、お煎餅の売り上げは一日1万円程度で、ネット販売としては悪くない数字でしたが、この程度では必要額にはほど遠く、どうしようかと思い悩む中で、突如一発逆転の大ホームラン劇が起こりました。それは山﨑という当時の経理課長がネットに書き込んだ一言でした。

「ぬれ煎餅買ってください。電車修理代稼がなくちゃ、いけないんです」

この言葉は平成19年の現代用語の基礎知識に載るほどの流行語になり、ぬれ煎餅の売り上げは、2億円から4億2千万円に跳ね上がりました。一万件のオーダーに商品を送り切るまでに半年かかりました。

ぬれ煎餅ブームから学んだことはデジタル世界の向こう側に、アナログの温かい心があるということです。正直、破産申し立ての準備をするくらいのところまで来ていましたが、人生諦めてはだめだなと思わされました。

地元の応援が銚電を動かした!

そうしたことがあって、一気に黒字に転換し、前社長の債務も何とか弁済することができ、老朽化した車両の更新も無事終わり、これからという時に、東日本大震災が起きました。銚子に来る観光客が原発の風評被害によって激減し、銚子電鉄も売り上げが激減しました。

ちょうどこのころ私は社長に就任しました。預金残高50万円、借金2億7千万という状況でした。千葉県中小企業再生支援協議会(現千葉県中小企業活性化協議会)に出向き、止まっていた補助金の復活を願い出て、どうにか必要性が理解され、10年ぶりに復活となりました。銚子の復興には、観光のシンボル銚電も必要だから、なんとか補助しようと設備投資額の3分の2を補助する、国と県と市の協調補助が決まったのです。明るい光が見え始めた矢先、今度は電車脱線事故が起きてしまいました。半月後に運行は再開したものの、運転本数は以前の6割になり、売り上げも大幅に減少。お客様もバスに奪われ、3期連続で多額の赤字を計上することになってしまいました。

そんな時、地元の高校生たちが「脱線車両を修理するための資金をクラウドファンディングで集める!」というチャレンジを始めてくれました。今から8年前で、クラウドファンディングもさほど認知されていない頃のことです。2か月で300万円集めないと成立しないクラファンでしたが、結果、ここで集まった500万円を高校生から供与してもらい、これで資金調達をして、車両も事故から約1年3か月を経て修理することができました。こうした応援を背に受けて、銚子電鉄はまた動き出したのです。

鉄道存続に向けての再度の挑戦

鉄道は地域の重要なインフラ。鉄道のない街は寂れ、町が衰退すれば鉄道も消えてしまうという表裏一体の関係にあります。鉄道会社は地域と共に生き残らなければならないのです。

ただ、弊社ではインフラとしての側面だけでなく、乗って楽しい日本一のエンタメ鉄道を目指しています。“銚電ブランド”に磨きをかけ、多くの観光客を銚子に呼び込むことで地域経済におけるハブの役割を果たせたらいいなと考えています。

例えば、「世界発!本格的電車お化け屋敷」。50分間乗り降り禁止で、もはや移動手段ではなく、アトラクションというような企画を開催したり、冬はイルミネーションで、ピンク一色にしてみたり。駅名に、好きな名前をつけてもらう、ネーミングライツも実施しました。このような様々なイベントや施策の結果、数多くのメディアで取り上げられるようになりました。

銚電黒字化実現の要件

銚子電鉄の黒字化実現に必要な要件として、次の5つをあげさせていただきます。

①数値の迅速な把握と情報共有
②顧客目線に立った経営
③AIDMA(※注)の法則
④社外取締役の活用
⑤ゲリラマーケティング

④の社外取締役は、基本無報酬で、一本釣りでお願いしています。ランチェスター戦略では、ビジネスにおける弱者とは市場シェアが2位以下のことであると言われています。お煎餅というニッチな市場で勝負できたことが功を奏したのかと思います。また、顧客に接近するということも大事で、私も現場に出て、リアルな声を聴くようにしています。

今まではいろいろな人に助けてもらって「ありがとう」と言わせていただく立場でしたが、これからは、「銚電がこの町にあってよかった。ありがとう 銚子電鉄」。そう言ってもらえるような存在になりたいと思います。

全研当日もお煎餅が参加者に大人気でした。

一度失われた鉄道は二度と戻っては来ない。鉄道の灯火を守るべく、全力を挙げて挑戦を続けていきたいと思います。本日はご清聴ありがとうございました。

※注:AIDMA:1924年にサミュエル・ローランド・ホールが提唱した、広告での生活者の心理プロセスを分析した概念。Attention(注意),Interest(興味・関心),Desire(欲求),Memory(記憶),Action(行動)の頭文字を取ってAIDMA(アイドマ)」という。

(事務局 古川佳子 記)

【第1分科会】政策委員会

行政に届けよう！自社の出来る事を
～モノも人も想いも地域循環できる社会へ～

報告者：
福井千波氏〈㈱コマドデザイン 代表取締役 川口地区会〉
中島伊都子氏〈中島製本㈱ 代表取締役 川口地区会〉
山本佳奈子氏〈㈱アクシス 代表取締役 川口地区会〉

今年もキーワードは[地域づくり]。昨年は、地区会と地域との現状を伺い、どのようにして、同友会、行政、地域企業とかかわっていくかのヒントを得ました。今回は、川口地区会の三社に、持続可能な社会、会社経営のために、どのように仲間を増やし、行政に働きかけ、共に、より良い「地域」を造り上げて行っているか、具体的に報告をして頂きました。山本氏からは、地域との関係は全くないと思っていましたが、経営者になり、同友会に入会して、地域の経済循環が、いかに重要か、感じるようになったそうです。そして、川口の『地域貢献事業者認定事業』を知り、認定を受ける事ができました。これは、企業の地域でのイメージアップ、販路拡大にもつながり、さらに地域社会からの信頼の向上を促進し、市内産業の活性化にもつながる制度で、まさに同友会活動とも、一致するものです。中島氏は、都内の会社中心のBtoBの仕事100%であったので、やはり地域とは関係ないと思っていました。しかし、コロナ禍になり、仕事が減り、思い切って自社製品の開発を進める事になりました。そこで、地元児童福祉施設の協力を得て施設の子供達の描いたデザインを取り入れたすばらしい商品を作り上げる事が出来ました。その時、地域のお宝を発見する事が出来たような気持ちになったそうです。福井氏は、大阪からこの町に引っ越してきた時、右も左もわからない中、なんとか、少しづつ町を知るようになり、フリーペーパーから事業をスタート。そして子育て優先の事業が出来るようにしたいと思い、そのためにも女性が生き生きと仕事が出来る町にしたいと思って色々やってきました。さらに、その思いをビジネスプランコンテストで発表し、それをきっかけに、行政とのつながりも出来るようになり、地元川口の女性経営者を応援する様々な事業にもつながってきました。また、そのことが、地域づくりの仲間・同友会の仲間を増やすことにもつながっています。実は、後の2社も『地域貢献事業者認定企業』。出身も違い、創業者、二代目、三代目、企業規模も様々な3人の経営者が今、同じ町の『地域づくり』を通して事業発展につなげていると言う報告を聞ける事が出来ました。また、今回は女性のすばらしい力をより感じる事が出来た報告でもありました。

（中部地区会 中山晴喜 記）

【第2分科会】経営労働委員会・障害者雇用推進委員会

誰もが地域や未来の「ちから」になれる！
～人を生かす経営の総合実践～

報告者：石井 雄一郎氏
〈㈲グラン・ブルー / ㈱京のちから 代表取締役 京都中小企業家同友会〉

第2分科会は、経営労働委員会と障害者雇用推進委員会、共同での分科会でした。報告者は、京都同友会の石井雄一郎氏。2009年1月に同友会に入会し、その年の4月に障害者の就労実習の受け入れを始めたことが全ての始まりでした。

最初は何もできなかったところから地道にどんどん成長していく姿に、障害者雇用、引いては人間の可能性を感じた石井社長。トライアル期間が終わった時に、回りの社員の方から「残って貰わなかったら困ります!」と声があがり雇用に至ります。すると、各所から問い合わせがあり、その後すぐに10人ほどの障害者を受け入れることになりました。

この間同友会に入会してまだ半年足らず。しかし、これまでのような経営では雇用を守り切れない。そう思い、人を生かす経営実践道場を受講します。京都同友会では、経営姿勢の前に、自己姿勢の確立が大切だと教えられます。その中で出てくるのが『三命を知る』ということ。三命とは、『宿命』『運命』『使命』のこと。そこで、自分の使命に気付き、「地域の障害のある方100人と、地域の企業が手を携えて、明るい京都を私たちで作りましょう!」という10年ビジョンもできあがりました。

すると、人が自然と集まり、なんと、5年先の目標だった福祉事業所㈱京のちからを、わずか半年で開設することになります。京のちからでは、みんなの個性や好きなことを生かし、アニメや町おこしなど様々な事業を展開。有名企業とのコラボ商品も生まれ売上げも右肩上がりという中… 2020年、新型コロナにより京都は壊滅的な打撃を受け、石井さんの会社も大幅な収益減に襲われます。しかし、すぐに観光客の途絶えた、嵐山の町起こしに取り組み、さらには京丹波のいちごを使用したカフェをオープン。今年の3月には、サンリオの人気キャラクター「マイメロディ」とのコラボも実現し、早速人気スポッ

トとなっています。

同友会に入ってなかったら、とてもこの苦境を乗り越えられなかったと語る石井氏。働く人の個性を生かすことで、新しいアイデアが生まれ、想像もしなかった未来へと突き進んでいます。

グループ討論では、報告の熱そのままに、各グループ活発な討論が行われました。人を生かす経営と障害者雇用について、参加者が大いに学びあう最高の分科会となりました。

（浦和地区会 小杉英介 記）

【第3分科会】共同求人委員会・社員教育委員会

学生の「就職観」の考察
～若者の価値観を知り、ともに成長する～

報告者：
吉川臨太郎氏〈聖学院大学 基礎総合教育部 特任講師〉

「キャリア開発」を専門とする聖学院大学の吉川先生をお迎えして報告いただきました。

先生が大学の卒業生にヒアリングした結果、若手社員の特徴として「理想と現実に折り合いがつけられない」ケースが多くみられるそうです。そんな若手社員が語る言葉の中で多く聞かれるのが「5年後、10年後が不安」とのことです。一生懸命やっても給料が上がらない。成長実感が持てない。そんな要因からモチベーションが低下し、離職してしまうケースが多いそうです。現役学生は中小企業のイメージとして「風通しが良い」という好印象を持っている反面、半分以上の学生が「中小企業は将来が不安」と答えているそうです。

採用面接で学生から聞かれたことがあるでしょうか?「御社の教育体制はどのようになっていますか?」と。社会に出ても「教育してもらえるのが当たり前」と若者は思っているそうです。そんな若手に対して先生は「甘い」と指摘しながらも「我々世代も受け止めざるを得ない」と仰います。

更に企業側の社員教育のあり方についてもご指摘されました。「商品知識や販売戦略など『専門スキル』に偏っていませんか?」と。若者も「自分はやっていけるのだろうか?」と不安を抱えています。若手のうちは特定の職種で必要とされる『専門スキル』よりも、社会人として必要なコミュニケーション能力やマナーなどの『汎用的スキル』の教育に重点を置くべきです。その後、徐々に『専門スキル』を教えながら「この会社で5年後、10年後どうなりたいか」と考える機会を与えることを提唱されていました。

社員を育てる前に人を育てる。そして、将来を想像出来る環境を作ることが大切。そう思わされる報告でした。

（東部地区会 西野隆 記）

【第4分科会】青年部

地域価値創造企業への挑戦
～関わる人達と描くビジョン経営 同友会の学び方～

報告者：鳥海晃平氏〈エンクル㈱ 代表取締役社長 東彩地区会〉

父から兄へ、兄から2020年のコロナ禍に鳥海氏は3代目として事業を承継しました。黒字倒産のリスクや、組織づくりに試行錯誤したことから「現状維持は衰退」と気づき会社を変革していきます。

社内メンバーと風土改革委員会を作り社名の変更、思い切ったブランドイメージの統一や行動指針の策定、経営理念の策定をおこないました。経営指針づくりセミナーも2020年に受講し、社内で作成した経営理念や行動指針を自分自身へ腹落ちさせていきました。経営指針発表会では、社員数100名、売上100億を目指すパワービジョンを発表しました。

地域に根ざして社業を推進し八潮市をよりよい街にしていくために、交通安全の看板設置などを行い「八潮市をエンクルオレンジ」に染めていきます。八潮青年会議所にも所属し、45周年記念行事の実行委員長として「防災フェス」を開催するなど、同友会内外でよりよい街づくりに熱心に取り組んでいる鳥海さんの経営体験をご報告いただきました。

社員さんにスポットライトを当てた表彰式や、皆で行った社員旅行、社員さんに向けて発信している社長ブログなど、たくさん行動して自らの想いを伝えること、仕組みをよりシンプルに解りやすいものにすることを社員さんと取り組んだ結果が数字としても表れます。実践を続ける鳥海さんの行動は圧巻でした。

グループ討論では「あなたは挑戦出来ていますか? なぜ挑戦しますか」というテーマで熱く議論しました。挑戦しない人は経営者にはならない! 何か1つでも持ち帰り明日からも挑戦を続けていこう、現状維持は衰退という気持ちで、挑戦を続けていこうと第4分科会はまとまりました。

（さくら地区会 中川怜子 記）

【第5分科会】仕事づくり委員会

エネルギートランスフォーメーション
～水素とカーボンニュートラルは時代を変える。近未来に迫る変化に備えるために～

報告者：上原秀教氏〈㈱レグリンク 代表取締役 川口地区会〉

これから根本から変わるかも知れない未来社会について、「エネルギートランスフォーメーション」つまり、エネルギーの

形態を別の形態に「交換」することにより、これからの仕事・経営・生活を議論する「場」を設けました。また、「変化」に対応すること。発想を豊かにすることが大切であると説明があり報告が始まりました。

カーボンニュートラルとは、多様な経済活動を継続しながら温室効果ガスの同量以上を除去吸収すること。また、クリーンエネルギーとして水素が注目されていることで、水素について知ることが大切である。水素は、水や化合物として無尽蔵に存在し、再生可能なエネルギーで、水から水素を作りだせばCO2を出さないクリーンなエネルギーと言われ、水を電気分解できれば、水素と酸素が取り出せます。水があるということは、水素もたっぷりあるといえます。水以外にも化石燃料の中や下水・汚泥の中にも存在している。

水素をエネルギーとして利用するには、エンジンなどで燃焼させる方法と燃料電池を用いて、電気を取り出す方法があり、事例報告として水素供給構造の転換に向けた取り組みとして、福島県浪江町の「福島水素エネルギー研究フィールド」や自動車の新時代の燃料電池自動車や都内にも増えてきている「燃料電池バス」や「水素ステーション」や「燃料電池フォークリフト」などの事例があり、水素を運ぶ方法も話し合われています。

脱酸素×電力ビジネスの商談会なども始まっています。世の中の潮流や先進企業の事例等も含めこれからも自社経営に活かせたらと思い企画させていただきました。

（川口地区会 太田茂吉 記）

【第6分科会】むさし野地区会

地域の未来に繋ぐ 60年企業の改革の今
～ゴミ処理からリサイクル、そしてその先へ～

報告者：大村相哲氏〈大村商事㈱ 代表取締役〉

大村商事㈱ではおもしろSDGsと名を打ち、「世界」より身近な「地域」に向けて、①有機物が循環する地域　②断捨離文化が進む地域　③交通安全が進む地域という3つの柱で地域の自然と人が元気になるという目的で活動をされています。3人の現役社員の方々に各事項について発表して頂き、それぞれが地域のために愛され続ける企業になるべく努力をされている姿を見ることができました。

実際に会社見学をさせて頂き、5S活動の体験として会社の清掃をさせて頂きました。清掃場所、清掃日、対応人員が決められており、計画的に活動を行われている点において、当店にも積極的に取り入れていきたいと感じました。

交通安全にも力を入れられており、パッカー車を運転するドライバーならではの会社独自のバックの方法や一時停止の二段階停止など事故を未然に防ぐ活動を知ることができました。また事故の報告をするだけでなく、安全に走行した記録を表彰、社内掲示する制度を取り入れられており、達成した方には高級なお菓子などを進呈されているとのことでした。そのお菓子を持ち帰ったことで家族が親の仕事を知るという機会が増えたという報告もあったとのことでポジティブな報告を社内で掲げることの大切さを学びました。これからの時代に必要なエッセンスが多く取り入れられた分科会となりました。

（むさし野地区会 金澤裕紀 記）

【全研実行委員長総括】

全研実行委員長
髙橋浩一氏
〈副代表理事 大宮中央地区会〉

全研実行委員長の髙橋です。10月19日（水）新座市のベルセゾンで全県経営研究集会を3年ぶりにリアルで開催する事が出来ました。設営地区会のむさし野地区会、全研実行委員、分科会を担当いただいた各委員会、事務局の皆様には大変、御尽力頂きありがとうございました。コロナの感染対策をしながらの設営は実行委員会全員で意見を出し合い考え、開催まで本当に大変でした。2022年全県経営研究集会のテーマは[本質を学び 熱量高く 強い経営実践への糧とする!]です。第一部の分科会では、各分科会素晴らしい分科会で報告者の報告も素晴らしくグループ討論では時間が足りないほど熱い討論になったと聞いています。第二部の全体会では小松君恵代表理事が挨拶され、来賓の並木傑・新座市長にご挨拶頂きました。記念講演では、銚子電気鉄道㈱代表取締役の竹本勝紀氏に[絶対にあきらめない。地域になくてはならない銚子電鉄存続への挑戦!] のテーマで報告いただきました。厳しい経営環境の中でも常に前向きに社員と一緒に考え、アイデアを出し合い会社を維持発展させていくという報告を冗談を交えながらして頂き、参加した全ての会員が竹本社長の熱い思いと前向きに経営していく姿勢に経営のヒントを頂けた記念講演になったと思います。第三部の懇親会では、大野元裕・埼玉県知事にご挨拶頂きました。大野知事は、メイン会場だけでなく、別会場でも挨拶され、各テーブルを回り会員の皆様と写真を撮ったりと時間の許す限り意見交換をして頂きました。各テーブルでは久しぶりの会員同士の交流でとても盛り上がり、いつまでも話が尽きないようでした。最後は、太田久年代表理事にご挨拶頂き全研は終了しました。終わってみて、設営から始まり全研が終わるまで私自身ずっと学びの多い全研となり、改めて熱い思いで前向きに経営を頑張ろうと思える全研になりました。

来年は中同協定時総会が埼玉で開催されます。会員の皆様の熱い思いを定時総会につなげていければと思います。

社員教育委員会

新入社員リフレッシュ研修会が開催されました

会場：新都心ビジネス交流プラザ4F

令和4年9月12日、コロナ禍の中ではありますが、4月に新入社員研修の受講生の半年後をサポートするためのリフレッシュ研修が開催されました。新入社員研修も多くの方々にご参加いただきましたが、今回も過去最高の70名近くの参加がありました。急遽会場を広くしたほどです。

今年の受講生は、学校でキャリア教育を受けていることもあり、グループ討論も上手にこなします。逆に少し心配になるのは、指示されたことに対しての正解を事前に用意してしまっているように感じたことです。

1回の研修に出ただけでどれだけ成長できるか、微々たるものです。それでもどうしてもいろいろ学んでほしい。今回のリフレッシュ研修、「リフレッシュじゃないじゃん」とぼそっとつぶやいた受講生がいたそうです。しかしながら、社会人、無礼講と言われた飲み会でも無礼講だと顰蹙だし、仕事だもの、サークルのイベントのようなわけにはいきません。これでいいのだと思います。

研修会では、数年前から、社会人基礎力に力を入れていて、一般的なマナー研修に留まらず、ストレスコントロールやコミュニケーションを学びます。我々にとっても学びの大きいグループ討論、受講生にとっても同様です。どうありたいのかを自ら考えてもらいます。

社員教育委員会の最も魅力的なことは、この前まで学生だった若者の成長を長い方々だと10年以上見守ることができることです。新入社員研修から10年を経て、新入社員研修・リフレッシュ研修のスタッフもいます。

今回の受講生も、何年後か、統計的には3年後くらいに、成長した姿を見せてくれることでしょう。

（大宮中央地区会 和泉紀子 記）

第55回中同協定時総会IN埼玉／グランドデザインが決定しました!!

設営同友会である、埼玉県の木、ケヤキをモチーフにカラフルにデザインされています。

全国から集まる中小企業家を様々な葉の色で表し、伸びやかに未来へ向かい成長する姿がイメージできます。多様性やSDGsを意識したカラフルな色と人で表現された心躍るデザイン。今後リーフレットなどさまざまな媒体に展開されますのでお楽しみに!!

リーフデザイン（案）

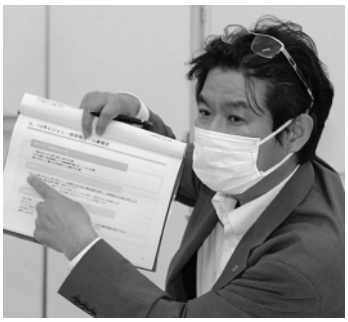
series

シリーズ 埼玉同友会50周年に向けて

埼玉中小企業家同友会が見据える10年後の野望とは ～その全貌について直撃取材！～

50周年という節目を迎える埼玉中小企業家同友会。
その節目として始まった「10年ビジョン」の策定。この策定会議には約30人もの会員が14か月参加したといいます。
このように大変な人的労力をもって作られたビジョンにはどのような意味があり、会員にどのように影響していくのか。
その会議をまとめた吉田副代表理事にお話を伺い、皆さんにもわかり易くお伝えします。

埼玉同友会副代表理事
吉田雄亮氏
㈱吉田電工 代表取締役
戸田・蕨地区会



10年ビジョンとその必要性

埼玉同友会に入会した企業が長期的にみてどのような形を目指していくのか。これが埼玉同友会の10年ビジョンです。企業は経営指針とは別に長期ビジョンをもって経営を進める事が大切とされています。10年後の企業がどのような姿になっているかを想像し、その姿に向かってどのようにすればいいかを考えます。それは新卒や入社した社員にとって目指すものになる事は間違いありません。
これは同友会のような団体でも一緒です。長期的なビジョンをはっきりと示す事で、入会した会員が自分や自社がどのようになっていくかを想像できるようになります。
同友会会員が進むべき道を見つけるために必要なもの。それが今回策定された10年ビジョンになります。

埼玉同友会としての具体的な10年ビジョンとは?

まずどのように策定していったかが重要です。埼玉同友会でも以前に、2020年に向けての長期ビジョンはつくっていましたが、それはブロック制・会員数・県の委員会づくり・事務局づくりをメインとしたものでした。この事を踏まえ他県の同友会がどのように作っているのかをヒアリングしスタートしましたが、他県と似たものではなく、参加者の経験と知識を結集した埼玉同友会のものを一からつくる事にしました。

まず大切だったのは、多くの会員に会議に参加してもらう事。これは企業でも同様で代表1人で作るより多数でつくったほうが、周知が早く浸透しやすいためでした。経営指針づくりセミナーのように過去の振り返りを行い、未来をイメージさせ「企業づくり」「地域づくり」「同友会づくり」の3つの観点によるグループに分けて会議しました。その際、他県の10年ビジョンは全く見せず、会員だけで考えて行う事で埼玉同友会らしいビジョンを目指しました。

多くの参加者が策定に関わっている為、様々な角度から考えられたヒントが詰まったものとなり、地区会や委員会という同友会からの側面だけでなく、自分の事、自社の事、そして地域の事などを自分事として捉えられる内容となりました。それだからこそ、困った時に立ち返る場所になり得るものだと思っています。

ビジョンを作成したあとの周知方法

10年ビジョンは「冊子」にして各会員に配る予定です。全ての項目を各地区会、委員会、会員が知っていなければいけない、とは考えていません。ビジョンを基に地区の議案書に用いて頂いたり、テーマを参考にしてもらったり、やってみたいもの、目指したいものなどのヒントとして利用して頂く事で浸透していけばと考えています。

新入会員に向けてはオリエンテーションで説明し、ビジョンを理解していくよう、働きかけていくつもりです。

10年ビジョンの中身

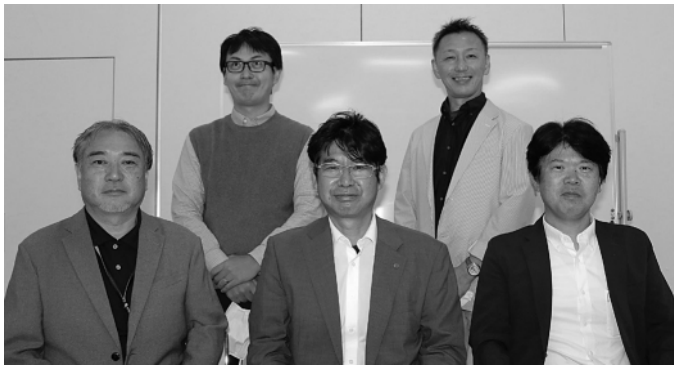
このビジョンは大きく分けて「企業づくり」「地域づくり」「同友会づくり」の3つ。

それぞれにスローガン、骨子が存在します。この「骨子」を達成する為に何をすればよいかが書かれています。
これは冒頭で記載しましたが同友会理事が集まって策定した訳ではなく、約30名の同友会会員が毎月1回平日午前中に集まり14か月かけて作ったものです。間違いなく各会員の経営ビジョンのヒントがつまっていて、同友会だけでなく自社へ、地域づくりに活かせるものとなっています。ぜひ発行を楽しみにしていただき、大いにご活用ください。

― 取材を終えて ―

今回取材するにあたり、その全ての内容を拝見させて頂きましたが、あえてここには掲載はいたしません。このような立派なビジョン、そして参加会員の努力が詰まったビジョンを中途半端に掲載するものではないと考えたからです。
冊子が配布された際、各会員が自分の目で確かめ、そして10年ビジョンをご活用頂ければと思います。

記事：柴田大智
取材・文責：広報情報化委員会特集Cチーム：
島袋てるひと（東部）、北村政義（大宮南）、柴田大智（大宮東）、
中山晴喜（中部）



上段左より柴田大智氏、島袋てるひと氏、下段左より中山晴喜氏、吉田雄亮氏、北村政義氏

西部地区会／東彩地区会

16 地区会の魅力捜索

埼玉同友会は16地区会に分かれて活動しています。
同じ埼玉であっても、他の地区会のことになると、そこの地区会が埼玉のどのエリアにあり、地域特性は何か、行政や学校や他団体などとの連携は?など、意外と知らない事もあるのでは?
16地区会の地域の魅力を順次、掘り出して紹介しています。今号では、西部地区会、東彩地区会です。

西部地区会

西部地区はとても広いね

西部地区はその名の通り、県西部地区の広大な範囲をカバーしており一地区で県の約半分を受けもっており入間地域、比企地域、秩父地域をまたがる7市10町1村から成り立っています。

1974年、埼玉同友会設立の翌年に3名から地区会が発足しました。全地域に会員さんはおらず9町1村には会員さんがいないのが現状です。地区会があまりに広い為集まりにくいなど難点もあります。現在活動の中心は狭山市で行われております。歴史ある地区会であり、特に例会づくりには先輩方から受け継いできた伝統があり、会歴の浅い会員さんをたて、ベテランがサポートする体制が整っております。若手が即活躍できる風通しの良い風土も地区会の魅力ではないでしょうか。

西部地区は山が非常に多く荒川の源流点となる奥秩父の甲武信ヶ岳(標高2475m)は長野県、山梨県、埼玉県の3県にまたがっています。

地区会発足の地、飯能市は林業で有名であり「江戸の西の川からくる木材」という意味で西川材と呼ばれています。近年は観光にも力をいれており、日本で唯一のムーミンのテーマパークであるムーミンバレーパークが2019年に開業しております。

所沢市は埼玉西武ライオンズの本拠地でもあります。2020年11月にはKADOKAWAのオフィスと日本最大級のポップカルチャー発信拠点としての複合施設サクラタウンがオープンしています。

関東三大七夕祭りの一つである狭山市入間川七夕祭りは江戸時代中期から行われており、その時々の世相を作品にする習慣があり飾りを競う為、祭り当日まで他の人には見せません。飾りの先端に魔よけの飾りがつくことは他には無い特徴です。

日本三大銘茶の一つ狭山茶は狭山市、入間市、所沢市を中心とする狭山丘陵地域で生産されており「味の狭山茶」として親しまれています。

(小池優太 記)

東彩地区会

チャレンジ! 行動! 東彩!

東彩地区会は、2015年に新地区として会員数30名で立ち上がり、現在8期目、会員数は64人です。(2022年11月現在)

主に、草加、三郷、八潮、吉川の4市のメンバーを中心に形成されています。
(各市人口:草加・24.7万 三郷・13.6万 八潮・9.2万 吉川・7.3万)
(各市企業数 :草加・2888 三郷・2104 八潮・1966 吉川・856)
(同友会組織率:草加・0.4% 三郷・0.5% 八潮・0.8% 吉川・2.7%)

各市は、それぞれ、東京都と千葉県と隣接しており、埼玉の最南東に位置する地区です。

地域的に製造業が多くあり、その理由としては、まずは都心と距離が近く、さらに草加、三郷、八潮市には高速道路ICがあり(吉川市も計画中)、物流、輸送の観点からの圧倒的利便性があります。その製造業の比較的若い2代目、3代目経営者が多く在籍している地区会です。また、2005年のつくばエクスプレス開業で、都内へのアクセスは20分というベッドタウン地域となり、沿線の三郷市、八潮市は人口増加中で、サービス業起業者も多い地域です。

県内同友会でも、会員平均年齢はもっとも若い地区会です!(だと思います。笑)

そのメンバー達は、各市のJC(青年会議所)や、商工会議所、商工会青年部でも積極的に活動をし、各地域の中心メンバーとなっていますので、その地域を巻き込むことによって、これからも若いメンバーの同友会入会の土壌ができあがって来つつあります。そして、地区会運営でも、県内屈指の幹事会出席率を誇り、例会づくりもガッツリ行い、グループ討論は絶対行います!

とにかく、東彩地区の会員は、積極的、主体的に自社事業や同友会活動、そして地域との取り組みにチャレンジしていく企業が多いです。M&Aをした企業、新業態を始める企業、行政との連携事業に取り組む企業、コロナ禍でのピンチの時に店舗を増やす飲食業。そして、同友会での活動では、毎年複数名の経営指針セミナー受講生、スタッフの輩出、県の専門委員会への多数の参加者、若手は青年部へ参加し全国の仲間との交流と、同友会活動と自社経営は不離一体とする企業がどんどん増えています。

そんな仲間たちと楽しく酒を酌み交わし、未来を語り合い、すぐ行動、すぐ実践。常に前へと進む経営者が集まる地区会です。

(齊藤壽和 記)

埼玉中小企業家同友会 2022年度第3回 WEB理事会議事録

《2022年度スローガン》 今こそ本質を見極め「人を生かす経営」の総合実践を
～企業づくり・地域づくり・仲間づくりで力の湧く同友会活動を～

◆日時：2022年10月28日(金)18:30～20:30
◆会場：WEB会議(zoom)
◆司会・議長：髙橋副代表理事
◆議事録署名者：吉田副代表理事
◆議事録作成者：清水事務局長

・太田代表理事挨拶
10月19日の3年ぶりの全研リアル開催、設営のむさし野地区の皆様、お疲れ様でした。ありがとうございました。全体会の記念講演の竹本社長には大変なこともユーモアを交えて話すことに感銘を受けました。先の安倍元首相の追悼演説を行った野田元総理の演説も厳粛でした。2名の話をお聞きして改めて、経営者として言葉を大事に扱うことを教えていただきました。話は変わりますが本日の理事会に東京同友会林事務局長にお越し頂いています。しっかりと準会員制度についてお聞きしたいと思います。

I. 議事(審議事項・協議事項・報告承認事項・連絡事項)

協議・審議事項

1. 入退会報告(報告者：事務局)承認
事務局より前回理事会以降の入会：25名、退会：11名の報告があった。入退会者については理事会で承認された。

2. 準会員制度について(報告者：太田代表理事・林東京同友会事務局長)継続協議
太田代表理事より紹介の後、林局長より16年前より運用している東京同友会の準会員制度導入の経緯とその成果と課題について報告して頂いた。その後、質疑応答を実施した。

質問1. 元々経営者と後継者が入会していた場合は制度が運用されたらどうなるのか(日高理事)
※会費収入減の可能性もあったので検討したが最終、制度通りで会員は7000円会費、準会員は3000円会費としたが会員の中には7000円会費でそのままの方もいた。但し、準会員は東京同友会の制度として理事になれないことになっている。

質問2. 経営者の親としては入会してほしかったのか(林理事)
※会員の経営者は複雑だった。譲りたくない、経営においてあらぬ知恵がつく、自分より能力が上になるのでは等。但し、親としては承継させたいという気持ちもあった。承継者としては早く経営者になるのは怖いので早くから他の経営者と接したいという感情もあったようだった。
※承継者が親の同友会での活動を見てまじめに学んでいるのを知り、経営者の苦労が分かったようだった。

意見1. 同友会の仲間が増えると地域でも運動が活発になるので制度は良いのではないか(新井理事)
今後について法人化と合わせてプロジェクト会議を開催して協議して行く事となった。

質問3. 総会での議決権はどうなっているのか(山本理事)
※東京同友会では準会員の議決権を有することを法人化定款で定めている。但し、理事にはなれない。

3.一般社団法人化について(報告者：太田代表理事・沼田監事)継続協議
2022年度7月理事会にて承認された埼玉同友会の一般社団法人化について沼田監事よりレジメに基づいて第1回目の法人化の概要についての説明があり、これより2023年4月からの運用の為、協議を重ねていくこととなった。また、今後は(仮)同友会法人化プロジェクト会議を2月迄全7回開催して定款、規則共に理事が検討して都度、理事会に報告していくことになった。その後質疑応答を実施した。

質問1. そもそも法人化を何故行うのか、メリット、デメリットは(小林理事)
※法人格を持つことは会の運営上、今後は会で所有する物等の名義を法人化できる。現在は代表理事が変わるたびに全通帳の名義人を変えることやその他多種な名義変更を実施している。その他、法的行為が認められることになる。また、社会的な信用も高まる。
上記以外の諸問題を検討するにあたり、今後については拙速にならないように毎月プロジェクト会議を開催して法人化のメリット、デメリットについて検討していくことなった。

意見1. この討論は協議、審議なのかを今後も明確にしていかないといけない(政理事)

報告事項

1.委員会前期総括(報告者：各委員長)
全9委員会の2022年度前期活動報告が委員長より報告された。

2. 全研実行委員会実施報告(報告者：髙橋副代表理事)
2022年度の全県経営研究集会が終了し、理事の方にも大変協力をして頂いた。ありがとうございました。コロナ禍の中での3年ぶりのリアル開催だったが326名の最終参加登録、実参加者数288名と盛況だった。また、終了後のアンケートの回収も多く、内容も多岐に渡った。今後は来年開催の中同協定時総会in埼玉に活かしていきたい。

3.中同協 定時総会in埼玉について(報告者：宇梶実行委員長)
中同協幹事会にて第55回定時総会の概要について承認を受けたが開催県として2分科会を企画する事となったのでぜひ理事の皆さん、推薦書を12月7日までに提出していただきたい。また11月24日(木)に宮城同友会の第50回定時総会in宮城の実行委員長の佐藤氏をお招きして設営県の意義等を学ぶ決起集会を開催するので参加していただきたい。

4. 組織強化支援室報告(報告者：植竹副代表理事兼組織強化支援室長)
組織強化支援室として10月25日実施した支援室会議では参加者の意識が高まっているのを聞いて安堵したが前期トータルでは入会50名、退会37名と目標に達しなかった。後期についてはブロック長の動きを明確にしていくことと理事のプラス1運動をぜひ達成したい。また他県の同友会で効果があったとされるSNSの活用も図っていく。来年の全国総会を前に1000名を超えて目標の会員数にしていきたい。

質問1. 組織強化支援室は全国総会までの時限設置か、それとも今後も継続するのか(山本理事)
※従前から組織強化支援室自体は存在していたが組織化していなかったため、機能していなかった。コロナ禍での会員減少により今年度新たに組織化して活動している。今後については全国総会に関わらず継続する。

5. 政策委員会報告(報告者：米山副代表理事)
①今年は2023年度に向けての政策提言は中同協の国への政策要望をベースに埼玉版として加筆して作成した。11月に埼玉県との意見交換会を実施し、政策への反映を要望していく。
②景況調査(2022年7月～ 9月)の集計
景況調査は集計締め切りを9月27日として実施した。143筆とほぼ15%の会員の参加となった。次回以降、更に集計数を上乗せしたい。景況調査は継続することにより経済状況、自社の状況等が見えてくる。自社での活用を図っていただきたい。また、継続して依頼している玉川大学の長谷川先生の景況調査分析会を開催する。どなたでも参加できるのでぜひ参加していただきたい。
日時：11月2日(水)10時～　オンライン(ZOOM)

6.長期ビジョン進捗状況について(報告者：吉田副代表理事)
長期ビジョン作成スケジュールに基づき、2021年から検討会8回、正副会議や各部会での討議を含めると合計50時間以上を費やし、延べ人数でも70人以上の参加をみた。8月までに成文化したものを冊子のデザイン・印刷業者を公募して9月に選定し現在、デザインを作成中。完成した冊子は12月理事会での承認を経て2023年度の定時総会で発表していく。また、11月以降の次年度の議案書作成にも活かしていく様にする。

7. 半期財務報告(報告者：小林理事)
①2022年度9月までの収入は会費49.0%、入会金45.5%・支出は予定通り、収支実績は収入減による若干の赤字は見込まれるが下期を加えるとほぼ予定通りの推移。
②予算では次年度開催の中同協の定時総会の立て替え金を見込んでいるため、赤字予算となっている。
③下期は多くのゲスト招いて増強して会全体として収入を増やしていくようにしたい。

8. 2023年第50回県定時総会記念講演候補者提案のお願い(報告者：菊永副代表理事)
①日時：2023年4月予定
②開催場所：新都心ビジネス交流プラザor WEB会議(ZOOM)。
③記念講演の候補者を各地区会で提案検討していただきたい。
候補者応募〆切：12月5日(月)
※最終候補者は12月16日(金)理事会にて決定し、事務局より依頼する。

9. 議案作成プロジェクト発足について(報告者：事務局)
①2023年度議案作成のためのプロジェクトを発足する。正副代表理事他11名で構成。
②12月～ 2月で4回開催。すべて16時～ 18時
〈①12月5日(月) ②12月22日(木) ③1月17日(火) ④2月9日(木)〉

10. 役員選考委員会発足について(報告者：奥津副代表理事)
①11月地区会長会議、委員長会議にて各推薦依頼を実施
②12月6日、2月1日に役員選考会議をZOOM開催。(委員：副代表理事、地区会長、委員長理事4名で構成)
③2月3日に役員内定者リストを正副代表理事に報告予定。

11. その他(参加依頼他)
①12月17日にベルヴィ大宮サンパレスにてこの度、中同協女性部代表を退任した久賀元代表理事の功績をたたえることと同時に退任の祝いをファム主催で開催する。理事の方で参加を検討してください。(菊永委員長)
②飲食、レストラン部会の立ち上げを企画している。飲食店の会員が少ないことと飲食業界の立て直しをしていきたい。次回の理事会で概要を示すので協議、審議していただきたい。(提案者：奥津副代表理事)

新たな辞書の1ページ 新入会員紹介 (9/1～)

中内善文
インターナルコンサルティング
大宮南地区会
経営コンサルティング
(中小企業診断士)

長谷川 英
(医)智健会
イーストメディカルクリニック
浦和地区会
内科、消化器内科、乳腺外科、人間ドック、健康診断

松本英利
㈱松本コーポレーション
川口地区会
不動産賃貸管理業

武井陽一
武井板金㈱
さくら地区会
建物の屋根、外壁、両どい工事、主に住宅リフォーム(外廻り)

丸谷康平
ここからヘルスLab.
中部地区会
健康アドバイス、支援

神藤 紗矢香
じんどう行政書士事務所
むさし野地区会
外国人在留支援、許可申請サポート

福田圭子
㈱Happy Place
東部地区会
障害福祉サービス、相談支援所、自立訓練、就労移行、放課後等デイサービス

古谷 志津香
㈱フルーナ
大宮南地区会
企業研修(ハラスメント、コミュニケーション、メンタルヘルス等)、産業保険サービス

中村新一
アポロ工業㈱
東彩地区会
精密金属・治工具取付具の設計、制作及び精密プレス加工

会員information

《住所変更》

東部地区会　㈱エフエムこしがや　越野 操会員
〒343-0845 埼玉県越谷市南越谷1-4-54
南越ビル2F

《住所・TEL・FAX変更》

東彩地区会　㈱友和　長谷川 敦会員
〒277-0802 千葉県柏市船戸2005-7
TEL:04-7135-1580
FAX:04-7135-1577

《社名・役職変更》

川口地区会　㈱HALFA　廣瀬 敦会員
㈱ハルファ 代表取締役へ

≪役職変更≫

大宮東地区会　㈱日生企画　柴田大智会員
代表取締役へ

同友会日誌 10月1日～31日

1日(土) 経営指針づくりセミナー第8講【戦略編④計画編①】
3日(月) 東彩幹事会、さくら幹事会、彩北幹事会
4日(火) 川口幹事会、大宮東幹事会、川越幹事会
西部幹事会、大宮南幹事会
5日(水) ファム10年ビジョンづくり、浦和幹事会
埼葛幹事会、中部幹事会、むさし野幹事会
経営問題解決談議
6日(木) 人を生かす経営勉強会、東部幹事会
戸田・蕨幹事会、大宮中央幹事会、北部幹事会
8日(土) 正副代表理事会議
9日(日) 正副代表理事会議
11日(火) 共同求人委員会、障害者雇用推進委員会
12日(水) 広報情報化委員会
13日(木) 経営労働委員会
14日(金) 仕事づくり委員会
17日(月) 政策委員会、東彩例会、ファム幹事会
19日(水) 全県経営研究集会
24日(月) 青年部幹事会、むさし野正副連絡会、
新入会員オリエンテーション
25日(火) 長期ビジョン会議、組織強化支援室会議
社員教育委員会
26日(水) 経営指針づくりセミナー第9講【計画編②】
大宮ブロック会議
27日(木) 中同協総会 設営実行委員会
28日(金) 合同企業説明会、理事会
30日(日) 経営実践塾【経営労働委員会 実践部会】

会員数

2022年10月20日現在

地区会名	会員数	地区会名	会員数	地区会名	会員数
川　口	72	大宮南	74	北　部	34
戸田・蕨	45	西　部	41	さくら	93
浦　和	69	むさし野	90	川　越	88
大宮東	40	東　部	127	東　彩	64
大宮中央	33	中　部	49	彩　北	18
		埼　葛	44	計	981

編 集 後 記

世界WHOで定める健康とは…肉体的・精神的・社会的とうたっています。このすべてが整って健康となります。みなさんはいかがですか？同友会活動をされているので「社会的」はクリアですね。では、「肉体的・精神的」な健康を取り入れていますか？私は耳つぼセラピストとパーソナルトレーナーとして「耳つぼエクササイズ」を考案し、耳つぼマッサージで心とカラダを整えながら、パーソナルトレーニングで筋肉を鍛え総合的に健康的な美しさを推進しております。マシンを使わないヨガマット1枚でできる誰でも簡単エクササイズです。さあ、「健康習慣」始めませんか？

(さくら地区会 水野純子 記)

DO・YOUさいたま
2022
12
Vol.
534

写真で綴る全県経営研究集会2022

全研実行委員が入り口でお出迎え

2023年度設営地区会
東部地区沓沢会長へ
全研旗が受け継がれました

全体会会場で生演奏する
髙橋浩明氏（大宮南地区会）と
菊永良枝氏（むさし野地区会）♪

懇親会にて挨拶する
太田久年代表理事

埼玉県知事 大野元裕氏

全体会で挨拶をする
小松君恵代表理事

全体会司会
上西和紀氏（東部地区会）

懇親会司会
谷田正樹氏（むさし野地区会）

全研実行委員会
委員長 髙橋浩一氏

中同協定時総会in埼玉をPR！

第6分科会見学中

懇親会は2つの会場に分かれて乾杯

大人気でした！銚子電鉄の物販コーナー

埼玉同友会 広報情報化委員

●委員長●
東彩 齊藤壽和
●副委員長●
川越 小田 明
埼葛 松本賢二
中部 矢澤敦臣

●委員●
川口 福井千波
山本佳奈子
山室 奈美
戸田・蕨 池田大喜
浦和 三友哲哉
大宮東 柴田大智
大宮中央 鈴木光義
高橋満広
大宮南 加藤早苗
北村政義
大森靖之
西部 小池優太
水野美和
むさし野 古崎千穂
東部 島袋輝仁
小川洋一
中部 矢澤敦臣
中山晴喜
埼葛 松本賢二
北部 東禎章
さくら 遠藤裕行
水野純子
川越 小田明
東彩 齊藤壽和
彩北 江田雅之

●制作担当●
枦込博久
●印刷・製本●
加藤早苗
●事務局●
古川佳子
（順不同・敬称略）

■ 2022年12月1日発行（毎月1回1日発行）■発行元／埼玉中小企業家同友会〒338-0001さいたま市中央区上落合2-3-2新都心ビジネス交流プラザ10F ■ TEL 048(747)5550 FAX 048(747)5560 一部200円

埼玉中小企業家同友会